

シンポジウム

国立自然史博物館の設立を目指して ～ネットワーク型博物館がめざす地域との連携～

参加費不要

平成29年11月4日(土)

13:00～16:30(受付12:30～)

国頭村民ふれあいセンター

当日参加可能です。

プログラム

13:00～13:10 主催者挨拶 西田 睦(琉球大学・理事・副学長)

第一部

13:10～13:40 基調講演 土屋 誠(琉球大学・名誉教授)

沖縄まるごと博物館 — 国立自然史博物館のあり方を考える

13:40～15:10 ネットワーク型国立自然史博物館と地域の連携について語り合おう！

湊 和雄(昆虫写真家)

映像で見るやんばるの森の希少生物とその生息環境

当山昌直(沖縄生物学会・会長)

なぜ、やんばるは残ったのか — 自然と人とのつながり

真板昭夫(京都嵯峨美術大学・名誉教授)

ヤンバルの自然をどう守るのか — エコツーリズムの先進地ガラパゴスに学ぶ

松浦啓一(国立科学博物館・名誉研究員)

自然史科学と自然史博物館

15:10～15:20 休憩

第二部

15:20～16:20 パネルディスカッション

司会 西田 睦(琉球大学・理事・副学長)

宮城久和(国頭村長)、伊集盛久(東村長)、宮城功光(大宜味村長)、大浜浩志(沖縄県環境部・部長)、岸本健雄(お茶の水女子大学・客員教授)、松浦啓一(国立科学博物館・名誉研究員)、寺北明久(大阪市立大学・教授)

16:20～16:30 閉会挨拶 松浦啓一(国立科学博物館・名誉研究員)

~~~~~

同時開催: パネル展示 10:00～12:00

主催: 日本学術会議動物科学分科会、自然史・古生物学分科会、国立沖縄自然史博物館設立準備委員会

共催: 琉球大学、沖縄科学技術大学院大学、沖縄美ら島財団、沖縄生物学会、沖縄県、国立自然史博物館設立やんばる地域推進会議(国頭村、大宜味村、東村)

問い合わせ先

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内

国立沖縄自然史博物館設立準備委員会・シンポジウム実行部会事務局

電話: 098-895-8993 E-mail: takemura@sci.u-ryukyu.ac.jp

沖縄本島北部地域は、「山原(やんばる)」と人々に親しみを込めて呼ばれています。やんばるにはここでしかみられない固有種が多く生息し、生物多様性を肌で感じることができる希少な地域です。やんばるに暮らす人々は貴重な自然を世代間で連携しながら守ってきました。次世代にやんばるの重要性をつないでいくためには、この地の生物多様性と自然の懐の深さを研究し、全世界にアピールするための拠点(国立自然史博物館)が必要です。私たちは、沖縄の地に国立自然史博物館を設立することを目指して、これまで3回のシンポジウムを開催し、沖縄に造るべき国立自然史博物館について夢を語り、そして新たな自然史博物館の姿(島嶼を有機的に結びつけたネットワーク型)を描いてきました。今回のシンポジウムは沖縄本島北部での開催となります。ネットワーク型の国立自然史博物館が、貴重な自然が残されているやんばるで活発な自然保護活動を展開する自治体とどのように関わっていくのかについて論じてみようと考えています。

